

# しあわせの村リニューアル検討有識者会議 提言（案）

## ◆ 有識者会議設置の背景及び目的

- しあわせの村は、ノーマライゼーションの交流拠点として平成元年に開村してから30年が経過し、施設の老朽化に加え、複雑多様化が進む新たな福祉課題への対応が求められている。また、既存施設の利活用や、周辺地域を含む村内外との連携不足等が課題となっている。
- こうした課題を解決するためのリニューアルに向け、これまで「しあわせの村あり方検討プロジェクトチーム」において検討を行ってきた。
- この度、しあわせの村で今後実施するべき新たな取り組みについて、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、有識者会議を設置し、検討を行った。

## 1 しあわせの村を取り巻く現状と課題

### ➤ 社会課題・動向

- 人口減少・少子高齢化の進行、コミュニティの衰退 ⇒ 福祉課題の複合化・複雑化、社会保障費の増大、地域包括ケアシステムの構築、地域住民が支えあう地域共生社会の実現
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの社会への浸透、2020パラリンピック開催によるパラスポーツ普及 等

### ➤ 神戸市の福祉課題

- 人口減少・少子高齢化、独居高齢者の増加、空家の増加によるコミュニティの衰退 ⇒ 地域社会を支える仕組み、神戸の魅力向上、くらしの質の向上
- 高齢者や障がい者は働きたい意欲があっても様々な要因で参加出来ない現状 ⇒ 誰もが働きやすい仕組みづくり
- 「予防と共生」の観点による認知症支援の充実
- 子育て支援の充実



### ➤ しあわせの村の課題

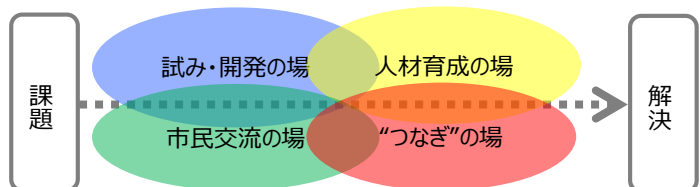
- 開村当時と比べて社会の状況は大きく変化。ノーマライゼーションの交流拠点として整備されたしあわせの村においても、新たな福祉課題への対応や、新しい取り組みを、積極的に進めることが必要。
- 村の豊富な資源や活動実績の活用（認知症支援、パラスポーツ、最新技術・テクノロジーの実証等）、施設の老朽化対策、新たな取り組みに向けた既存施設の転活用
- 高齢者や障がい者をはじめ、子どもや子育て世代等、だれもがより楽しみ、より参加できる村へのアップデート
- 「非日常を楽しむ村」だけでなく、多様な「しごと」の創出など「日常を支える村」へのアップデート
- 新たな取り組みへ様々な人を巻き込む、関係人口の増加



## 2 しあわせの村リニューアルにおける取り組みの方向性

### ➤ しあわせの村の将来像（H29しあわせの村あり方検討プロジェクトチーム報告より）

- しあわせの村の将来像は、次々に福祉の試みが起こり、新たな福祉課題を解決することによって、ソーシャルインクルージョンの実現に貢献するとともに、市民のくらしに寄与すること
- しあわせの村を起点に国内外からの人材を呼び込むとともに、広く成果を発信することで、国際都市として発展してきた神戸のさらなる成長や国際的貢献につなげていくべき
- 4つの機能により、時代に応じた様々な福祉的課題を解決し、全市への事業展開や最先端事例の実現に繋げる



## ➤ 取り組みの方向性

(課題解決に取り組むための、多様な人・団体との連携)

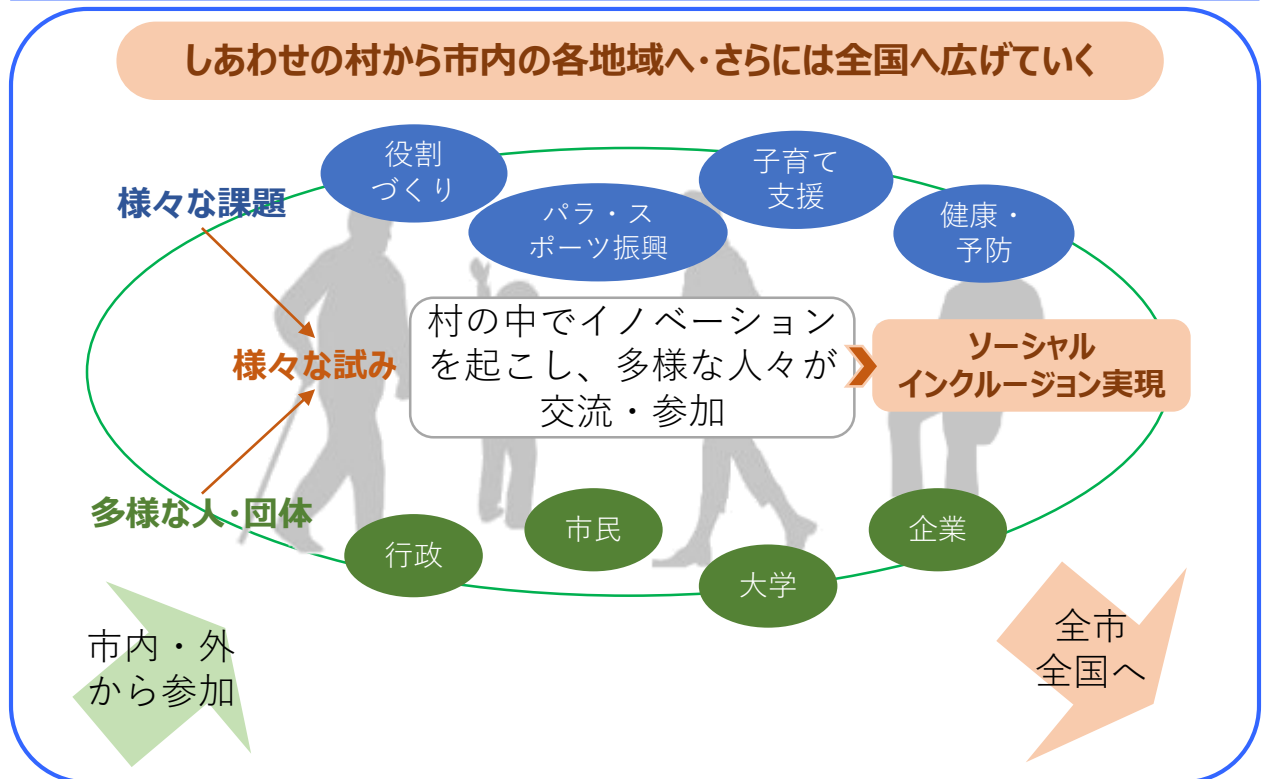
- 様々な福祉課題の解決に取り組むため、先端的な技術・ノウハウを集積する。そのため、大学等の研究機関や企業、課題解決に取り組む各地域の市民など、多様な人・団体と連携し、課題解決に取り組む。

(イノベーションを起こし、ソーシャルインクルージョンを実現)

- 村の中でイノベーションを起こし、課題解決のための様々な試み（モデルづくり）が進むことにより、村内・市内の各地域・市外からの人材が交流し、高齢者・障がい者・子どもなど多様な市民が村の活動に参加することで、ソーシャルインクルージョンを実現。

(市内の各地域・全国への発信)

- 様々な試みを発信・展開することにより、しあわせの村から市内の各地域へ、さらには全国へ新たな取り組みを広げていく



## 3 しあわせの村における新たな取り組み（案）

### ① 高齢者・障がい者が主役の村づくり（“しごと”などの役割づくり）

- 高齢者・障がい者にとって就労や地域活動などの希望があっても、様々な要因で出来ない現状に対し、就労に加えボランティア活動なども含む多様な参加のあり方を作り出し、サービスの受け手としてではなく高齢者・障がい者が主役の村をつくる

(企業・大学と連携した“しごと”創出の基盤づくり)

- しごとの創出に向けて、遠隔での就労（リモートワーク）や企業・大学を対象とした住機能付サテライトオフィス等、村内施設の転活用によるモデル的な環境整備
- 大学との連携等による、村内事業での様々な高齢者・障がい者雇用の促進、学びの機会提供、超短時間雇用等多様な働き方の創出 等



(幅広い役割づくりや機会の創出)

- ボランティア活動など高齢者や障がい者のライフスタイル、ニーズに応じた多様な「しごと」を創出
- 村内サービスの利用者という役割から、村内の取り組みに積極的に関わる役割と機会を得る場に

(今後の課題)

- ✓ 賃金という形だけではなくポイント制度など、社会参加の意欲を引き出す仕組みの構築を検討
- ✓ 幅広い人々を受け入れるための環境整備として、職住近接の観点からしあわせの村と連携した住環境のあり方についても検討することが必要

## ②様々な領域における課題への対応

### (1) パラ・スポーツの振興

- ユニバーサル社会への理解を深め、あらゆる人の健康づくりと社会参加を実現することが必要
- 障害の有無に関わらないパラスポーツ体験機会の提供 (パラスポーツ教室の拡充)
- 施設改修によるパラスポーツアスリートの育成拠点としての環境整備 (各種大会実施、選手団の合宿、ニュースポーツ大会誘致)
- 生きがいづくりや交流・社会参加機会としてのeスポーツ活用



(今後の課題)

- ✓ 企業を巻き込み、取り組みの幅を広げることが重要であり、将来的にパラスポーツメカやスタートアップ企業との連携によるパラスポーツ用品開発なども

### (2) 認知症予防・共生の全市拠点 (おれんじ・パーク)

- 「認知症神戸モデル」推進に向けて、今後ますます重要となる「予防と共生」の拠点として事業を推進しあわせの村が地域生活をサポートする場に
- 幅広い世代が認知症を学び・集える (共生)、楽しみながら予防事業に参加できる環境を整備
- 認知症患者の社会参加・就労支援、当事者や家族の集い、「神戸モデル」の発信、最新機器の体験コーナー、予防のための運動 (コグニサイズ) 教室等



(今後の課題)

- ✓ 共生を地域に広げるため、「しごと」や役割づくりと連携して、若年性や早期の認知症患者がゆるやかに働ける環境づくりなどにも取り組む
- ✓ 研究機関や企業と連携し、効果を実証しながら事業を進める必要がある

### (3) あらゆる子どもの成長支援

- 少子高齢化の中で、自然環境も活かした子どもの成長支援がますます重要に
- しあわせの村の自然フィールドを活用し、子どもの実体験を支援するプログラムの開発
- 各地域と連携し、子ども自身がリーダーとして活躍する機会の提供
- 障害の有無に関わらず楽しめる子どもの遊び場整備
- 家族間・世代間交流、社会経験機会の提供 など



(今後の課題)

- ✓ 誰もが参加できる遊びや体験を作り出すため、バーチャル空間も取り入れた展開を検討
- ✓ 取り組みを広げるため、成長した子どもたちが、再びリーダーとしてしあわせの村や地域に関わる人材となるよう育成することを目指す

### (4) 動物とのふれあいを通じた交流

- 村の立地や環境を活かし、動物とのふれあいを通じた交流を広げる
- アニマルセラピー・動物とのふれあいによる、心と体の健康増進
- 村を訪れる高齢者・障害者や子どもたちなど様々な人々の交流を促す

### ③新たなまちづくりに向けた、しあわせの村でイノベーションを起こす基盤づくり

#### (1) 新たなユニバーサル社会構築の実験

- 村内循環バスの呼び出し（オンデマンド）システムの導入
- 次世代先進移動手段の検討、ドローンや仮想現実（バーチャルリアリティ）の活用
- 電動車イスによる、個々人での自動移動手段の実証 など
- 障がい者、高齢者、スタートアップ企業等が参加し快適な生活や、しごとを得るためのアイデアコンテストの開催・村内施設と連携し、実証実験の実施 など



#### (2) 施設のリニューアル

- 様々な取り組みの実現を支えるため、施設を効果的に活用
- 温泉健康センターをリニューアルし、様々な事業と連携
- 施設の効果的な転活用
- バリアフリー対応、ユニバーサルデザイン対応



#### (今後の課題)

- ✓ 将来にわたり“しごと”や役割づくり、技術の発信など、市内や全国に広がる取り組みを展開するためには、最新テクノロジーを積極的に導入し、先進地であり続けることが重要
- ✓ 様々な事業を展開する企業や団体と連携するため、最新の情報や動向を常に把握し、村へ巻き込むことが欠かせない

#### (マネジメント・コーディネート機能の強化)

- ✓ 幅広い取り組みの実現及び継続実施にあたっては、P D C Aサイクルに基づき、計画・実行から検証までの各段階において、研究機関や民間事業者など多様な主体との連携が不可欠
- ✓ あわせて、しあわせの村のビジョン・取り組みの方向性等に基づき、これらの多様な主体を適切にマネジメントし、新たなプログラム等をコーディネートする役割が極めて重要となる
- ✓ マネジメント・コーディネート機能の強化を図るとともに、専門家や民間事業者との積極的な連携体制の構築を目指す

#### (ブランド力の向上)

- ✓ さらには、全国の研究機関や民間企業等が、ここで実証や事業を行うモチベーションとなるブランド力が必要であり、また市民をはじめ全国の人々がしあわせの村発の新しい取り組みを自分たちもやってみたい、と思える環境づくりが求められる
- ✓ そのため、新たな取り組みの実現による魅力向上を図るとともに、プロモーション強化について検討する必要がある

用語集として、ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン・ユニバーサルデザイン・eスポーツ について説明予定